

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター病院

病院からのお願い



2025年 8月更新

入院申込みをされた患者さまへ

1)入院予定病棟について

- 2 南 小児神経科、脳神経内科など長期療養型の病棟
- 3 南 小児神経科、脳神経外科、総合内科、睡眠検査などの混合病棟
- 2 北 脳神経内科
- 3 北 脳神経内科、総合外科、整形外科
- 4 南 脳神経内科、てんかんの検査など
- 4 北 精神科救急
- 5 北 精神科

2)入院日について

入院予約票をご確認ください。

3)入院・退院時間について

入院当日は9時30分までに①入退院受付窓口でお手続きをお願いします。
病棟への入棟は10時となっております。

退院当日は9時30分までに手続きの上で早めの退室をお願いしています。
原則として土・日・祝日の入院・退院は対応していません。

4)入院中のお部屋について

診療の都合を最優先に病室をご案内しております。※詳細は本冊子 7 頁をご参照ください。
入院中に担当医変更、病棟・病室のご移動をお願いする場合があります。

5)入院前にご連絡いただきたいこと

入院申込み後にご本人様・ご家族様・介護の方を含め、下記の症状がある時は入院の延期、または個室対応が必要になる場合があります。

下記の症状がある時は、必ず入院前に外来主治医にご連絡ください。

付き添いの方の体調不良も同様です。事前にお知らせください。

- ・37.5℃以上の発熱、風邪症状、下痢、嘔吐、皮膚の強いかゆみなどの感染症状
- ・インフルエンザ ・新型コロナウイルス ・水痘(水ぼうそう)
- ・流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)風疹・麻疹(はしか)等の感染性疾患

- 病状の大きな変化、検査治療内容については外来主治医へご連絡ください。
- 一般科、その他診療科の方で日程調整が必要な場合は外来主治医もしくは病棟看護師長にご連絡ください。
- 小児科の患者様で日程調整が必要な場合は外来主治医にご相談ください。

<連絡先> 国立精神・神経医療研究センター病院(代表)042-341-2711

(電話対応時間:平日 9 時~17 時)

令和 5 年5月入退院支援室作成

1. 安全な医療のためのお願い

みんなの協力で、事故のない安全・安心な医療にしましょう

1. 患者さん間違いによる事故を防止するために、リストバンドの着用をお願いします。
リストバンドのバーコード認証による本人確認を行います。
2. 同姓や似たお名前の患者さんがいますので、お名前はフルネームでご本人またはご家族に名乗っていただき確認します。
間違いのないよう、何度もお名前を伺うことがございます。ご了承ください。
3. 薬品や食品のアレルギーと感染症があるか、予防接種等の状況確認を行います。
4. 誤嚥による肺炎や窒息事故を防ぐため、飲み込みの状態に合わせた対策をします。
(例) 飲食をホールでとる ナースコールを準備する 食事時間はテレビを消す

5. お薬の間違い事故を防ぐために、以下のご協力をお願いします。

- ① お薬手帳とお薬(基本7日分)をお持ちください。
原則、入院中は病院のお薬を使用させていただきます。
 - ・7日分の残薬がない場合は残りのお薬を全てご持参ください。
 - ・入院中に持参薬の使用を希望される場合は、入院日数分のお薬をご持参ください。
 - ・経腸栄養剤(ラコール、エネーボ等)を始めとしたご持参いただくのが大変なお薬は1日分をご持参ください。
 - ・状況に応じて当院のお薬を使用させていただく場合があります(調剤調整や管理上のリスクが考えられる場合など)。予めご了承ください。
 - ・当院で採用がないお薬は、追加でご持参いただくか、他のお薬(同種同効薬)に切り替える場合があります。予めご了承ください。
 - ・入院中に使用しないお薬(現在使用していないお薬など)は、ご持参不要となります。
- ② お薬手帳とご持参されたお薬は、薬剤師・看護師・主治医に全てお渡しください。
※入院後に「内服管理計画書」を立案し、ご説明いたします。
- ③ お薬をご持参いただく上で分からないことがあった時は、ご入院を予定している病棟の看護師長までご相談ください。

6. 院内で使うすべての医療機器は、臨床工学技士が点検し、職員が管理しています。
自宅にある医療機器を持ち込む場合、事前に主治医・看護師にご相談ください。
職員に許可なく医療機器の操作・移動、取り外しをしないでください。
7. 保護室や一部の個室、ICUには、観察用カメラを設置しています。
この画像は1週間保存後に消去され、保存中は管理者が安全性の向上と危険防止のために必要と判断した場合にのみ閲覧し、他の目的には使用いたしません。

- 8.倉庫やスタッフステーションなど、職員専用エリアへの立ち入りは禁止です。
 他の病室に訪問することもお控えください。ご用の際は看護師にご相談ください。
 9.火災・自傷行為・違法行為などを招かないために、以下のご協力をお願いします。

危険物

火気類や薬品類、刃物類その他治療の妨げになる物は「危険物」として、病院内・病棟内への持ち込み及び使用・所持・差し入れをお断りいたします。見つけた際は、お手数をおかけしますが、自宅へお持ち帰りいただくか、お預かりをお断りし、廃棄処分をお願いする場合がございます。

準危険物

患者さんの個別症状によっては脅威になると主治医が判断し、一時的にお預かりさせていただき使用を禁止するものや、病棟個別の特性によって持ち込みをお断りするものを「準危険物」としています。

*詳しくは、主治医や病棟看護師にお問い合わせください。

精神科病棟に入院される方へ

ガラス製の容器は持ち込めません。割れない容器でご準備ください。

*粉コーヒー・化粧水などは、樹脂製かビニール容器に移し替えてお持ちください。

*詳細は「病棟への持ち込み禁止の物について」を参照ください。

<危険物一覧表>

危険物 持ち込みをお断りするもの		準危険物 症状により主治医が判断するもの 病棟によりお断りしているもの	
火気類	爆発物 火薬 花火 ライター マッチ タバコ	ガラス類	鏡 グラス ビン 陶器
薬品類	可燃ガス・スプレー缶 お酒 アルコール類 シンナー類 漂白剤 違法薬物 多量の処方薬	刃物類	ハサミ 剃刀 フォーク 箸 ペン 爪切り 缶類・プルトップ 針
刃物類	カッター ナイフ	薬品類	洗剤 柔軟剤 シャンプー リンス マニキュア 除光液
		ひも類	電源コード くつひも タオル
		衣類	ベルト マフラー ストッキング

*詳しくは病棟看護師にお問い合わせ・ご相談ください。

***センター敷地内は全面禁酒・禁煙※です。ご協力をお願いします。**

※ノンアルコールビール等・電子タバコ含む

10.安全な範囲で活動をするために、以下のご協力をお願いします。

患者さんの活動範囲は、治療に必要な「安静度」として主治医が決定します。

(例)「ベッド上 < 病室内 < 病棟内 < 建物内 < 敷地内 < 制限なし」

病棟の外に出るには、以下の(ア)(イ)、どちらも主治医の許可とお手続きが必要です。

(ア) 院内での活動

(病院の中、敷地の中の散歩・リハビリ)

- ① 主治医と決めた安静度に従ってください。
- ② 病院建物内・センター敷地内活動についてスタッフより説明します。
- ③ 「病院建物内・センター敷地内活動表」(以下、活動表)を、ご自分で保管・管理してください。

病棟を出るときのお手続き

- ① 活動表に必要事項(時間・行先)を記載してください。
- ② 外出する旨を病棟スタッフにお申し出ください。
- ③ 活動表をスタッフステーション前の所定の場所に提出し、出発してください。

病棟に戻ったときのお手続き

- ① (入口が施錠されている場合)病棟入口ドアの施錠を確認してください。
- ② スタッフにお申し出ください。活動表をお返しします。

*新しい活動表が必要なとき、退院のときは、活動表を病棟スタッフにお返してください。

(イ) 院外での活動

(敷地外のスーパーでの買い物や自宅へ出かけ泊まる、食事の変更があるなど)

- ① 主治医の許可を得てください。
- ② 「外出・外泊届」用紙をもらい、記入してください。
- ③ 出発の2日前までにスタッフに提出してください。
- ④ 出発時、用紙の控えとお薬をお持ちになり、外出中は携帯してください。
- ⑤ 外出・外泊中も、体調管理に注意を払うようお願いします。
- ⑥ 帰院が遅れる場合は、わかった時点で病棟へ電話連絡をお願いします。

*必要時は「(外出・外泊・面会・付添い)患者報告用紙」もご記入をお願いします。

11. 転倒・転落事故や、それに伴う骨折や外傷を、「ゼロ」にすることはできません。
転倒予防のための身体拘束(ベルトなど)は、できるだけ行わないように努めます。
入院時に、危険度を評価し、安全な環境と体力づくりを目指していきます。
評価の結果に合わせ、日中の活動・運動やリハビリテーションを検討します。

<転倒・転落を防ぐためのポイント>

- ① 日中はできるだけ体を動かして、筋力維持・向上し、昼夜逆転を防止しましょう。
- ② 動きやすい服装で、ズボンは裾を踏まない丈のものをご着用ください。
- ③ 履きやすく脱げにくい、かかとの入る靴を選びましょう。
※サンダル、スリッパなどは脱げやすいので病院では履かないでください。
- ④ ベッドの高さは、座ったときに、しっかり足がつく高さに調節しましょう。
- ⑤ ベッドの周囲を整頓しましょう。適宜、ベッド柵の使用にご協力をお願いします。
- ⑥ 高柵ベッドをお使い方の場合、そばを離れる際にはロックがかかっていることを確認してから離れてください。
- ⑦ てんかん発作、骨粗しょう症など、転倒時の骨折や外傷の危険が高い場合には、保護用のパットや帽子をお勧めすることがあります。
- ⑧ 夜間のふらつきに注意し、就寝前にはトイレを済ませましょう。
- ⑨ 移動する際に見守りや介助を受けるよう説明されている方、また体調がすぐれないときは、ナースコールを押して、看護師の到着をお待ちください。

12. 病棟入り口付近にある避難経路図をご確認ください。
もしもの地震や火災などの災害発生時には、職員の避難誘導に従ってください。
13. 医療安全の詳しい取り組みについては、「医療安全管理規程」を閲覧できます。
ご希望の方は職員へお申し付けください。

2.感染防止のためのお願い

みんなの協力で、感染症の発生・拡大を防ぎましょう。

1. 手洗いや手指消毒をこまめに行いましょう。

◎病室の出入り ◎食事の前 ◎トイレの後



2. 子どもの患者さんのワクチン接種歴を確認する場合がございます。

3. 感染症流行期は、面会と外出・外泊を控えていただくことがあります。



4. 食中毒防止のため、手作りの飲食物、なま物の持ち込みは、原則ご遠慮いただいております。

5. ご家族の方へ

*面会・付き添いの許可は、院内および地域の最新の感染状況に合わせ検討しています。

*未就学児や体調のすぐれない方、大人数での面会はご遠慮いただいております。

*詳しくは、主治医・看護師にお問い合わせ・ご相談ください。



3. 安心な環境のためのお願い

1. 治療環境の独占は、お断りします

- 急な治療変更、病状の急変・救命処置、緊急入院、その他の諸事情を優先し、患者さんのご希望に沿わない病棟・病室への移動をお願いすることがあります。
- 主治医や担当職員との面談は、あらかじめご相談いただき、直接お約束ください。

2. トラブル防止のためにお守りください

- 暴言・暴力、器物破損、セクハラ、ストーカー行為、盗撮、喫煙・飲酒、危険物持ち込み、違法薬物の所持・占有、これらは迷惑行為で診療妨害です。固くお断りします。
- 建物・設備・備品などの破損・汚損・紛失は、弁償や補償をお願いしています。
- 患者さん同士の、個人情報・金銭・本や雑誌・ゲーム・スマホ・貴重品などのやりとり、貸し借り、別の病室への訪問、宗教などへの勧誘行為はお控えください。
- 治療や検査の準備、アレルギーや薬の飲み合わせなどにより飲食物の制限がある患者さんがいます。面会時の差し入れや、患者さん同士のやりとりをお断りします。
- 貴重品や現金は、持ち込みを最小限にして、セイフティー・ボックスに鍵をかけて保管してください。もしも紛失や盗難被害に遭っても、病院は責任を負いません。
- 郵便や宅配便のご利用は、平日・日中の受け取り指定でお願いします。
 - *夜間や土日祝指定の受け取りは、お受けしておりません。
 - *通信販売、デリバリーなどのご利用は予め主治医・病棟師長にご相談ください。
 - *お渡しの際に、手紙や荷物の中身に危険物がないか、確認させていただきます。
- 許可のない撮影・録音など(盗撮)の不正行為、不正に入手した画像・動画・音声・情報などをマスメディアやインターネットなどへ投稿する行為をお断りします。
- 違法薬物の持ち込み・所持・保管・占有・使用・売買等の違法行為を確認した場合、今後の治療をお断りすることや、必要に応じ警察に相談する可能性があります。

3. 謝礼をお断りします

- 当院は、一切の謝礼をお断りさせていただきます。

ご意見・苦情など

お気づきの点、ご意見・苦情などは、下記の担当窓口にお申し出くださるか、各病棟に設置してあります「ご意見箱」へ、お気軽にご意見をお聞かせください。

<担当窓口> 042-341-2711 医事専門職

4. 付き添いを希望される患者さん・ご家族様へ

1. 付き添い許可申請手続き

- 「付き添い許可願い」申請書に、署名・捺印し、看護師にお渡してください。
- 1枚での申請期間は2週間です。それを超える場合、再度申請が必要です。
- 患者さんおひとりにつき、付き添いの方は1名です。



2. 付き添いをする方の寝具について

- 簡易ベッドの持ち込みはお断りしております。
- 付き添い者の寝具は、業者が1日550円でお貸ししています。
- 業者と直接、契約を行ってください。
- 代金は、退院前日または終了日に、業者が病棟で清算いたします。
- 長期貸し出しの場合は、1週間毎の清算等リネン業者とご相談ください。
- 添い用寝具の使用は、午後9時～午前6時までとさせていただきます。
- 日中はケアがありますのでベッド周囲を空けてください。

3. 付き添いをする方の食事について

- 付き添いの方のお食事はご自身でご用意ください。
- 院内は調理禁止です。
(共有スペースにある電子レンジ、給湯器、冷蔵庫はご利用いただけます。)



4. 付き添いをする方の入浴について

- 各病棟により利用方法が異なりますので、入院時にご確認ください。

5. 付き添いをする方の健康状態について

- 付き添い者の体調不良は、早めに医師・看護師にお知らせください。



6. その他

- 病室は限られた空間です。生活必需品は、最小限にお願いします。
- 入院されている患者さんのケアを第一に優先します。
処置・観察などで、昼夜問わずベッドサイドに伺います。(呼吸や点滴の観察など)

ご不明な事がございましたら、いつでも職員に声をおかけください。

5. 薬物やアルコールの使用、自傷行為のある方へのメッセージ

薬物やアルコールの使用、あるいは、自分のからだを傷つける行為は、こころの痛みに対する「鎮痛薬」としてはたらくことがあります。そのため、「つらい今」を生き延びるために、これらの行動を手放せないと感じる人もいることでしょう。

しかしその一方で、そうした行動には困った点が2つあります。1つは、次第に量や頻度、程度がエスカレートしてしまい、自分の意志ではコントロールできなくなってしまうことです。そしてもう1つは、つらい状況に対して薬物やアルコール、自傷行為を用いて一人で対処することにより、周りからはあなたのこころの痛みが見えづらくなり、治療や援助の糸口が分かりにくくなってしまいます。

入院は、あなた自身がセルフコントロールを取り戻し、薬物やアルコール、自傷行為以外の方法で自分を落ち着ける力を高めるために役立つ可能性があります。その際、お願いが2つあります。

★1つは、安心・安全な治療環境を作るために協力するということです。

具体的には、危険物の持ち込みや所持品に関する約束事、面会や外出時の注意事項を守ってほしいのです。

★もう1つは、自分ひとりで解決せずに、私たちにあなたのこころの痛みを伝えてほしいということです。

具体的には、薬物やアルコール、自傷行為といった方法で自己対処する前に「クスリを使いたくなった」「飲みたくなった」「自分を傷つけたくなった」と教えてほしいのです。

もちろん、あなたはこれらのお願いを「むずかしい」「ちょっと無理」と感じるかもしれませんが、その場合には、遠慮せずにそのように教えてください。他によい方策はないか、私たちも一緒に考えてみたいと思います。

治療の主役はあなたです。あなたが望んでいること、大切にしていることを教えてください。それを踏まえて、私たちは治療の目標を話し合い、目標を実現するための具体的な方法を、一緒に考えていくつもりです。入院治療があなたの回復に役立つことを願っています。

